

御前崎小学校 5 年生 海洋教育授業

平成 28 年 09 月 30 日

- 日 付：平成 28 年 9 月 30 日（金）
- 時 間：8：30～11：40
- 場 所：御前崎ロングビーチ～渚の交番下までの海岸
- 参加者：御前崎小学校 5 年生（児童 42 名、教員 2 名 計 44 名）
- スタッフ：石原、川口

今年度初めての試みとなる、学校との連携授業が開催されました。この取り組みは、『御前崎の子ども達が、地元の海や自然の素晴らしさを体感し、愛着・親しみを持ってもらいたい。』という想い、目的の基、実現しました。

昨日に引き続き、御前崎小学校 5 年生の皆さんが、2 回目となる海洋教育授業の為、御前崎ロングビーチの西側にある薄原駐車場に集まりました。実施日となる当日は、北東よりの風が強めに吹き、肌寒く感じることもありましたが、雨に降られることなく活動を行うことが出来ました。



2 回目となる今回は、『海を感じ、海を学ぶ』と言うテーマの基、実際に御前崎の海岸を歩き、御前崎の海が抱える課題についてかんがえます。今回の活動についてガイダンスを行ない、早速、海岸を歩きます。



活動ポイントに向かう途中、悲しい光景に遭遇しました。ウミガメの子ども達の死骸が海岸に打ち上がっていました。学校でふ化したばかりのアカウミガメの赤ちゃんを育てている子ども達としては、衝撃的な光景だったかと思えます。ですが、この後始まる活動に向け、子ども達が真剣に考える機会を与えてくれたように感じました。



活動ポイントに到着した子ども達は、海に打ち上がる漂着物の分類分けを行いました。四つに区切られた区画に、海の植物、海の動物、陸の動植物、人工物を集めて行きました。これは何だろう??と、考えながら漂着物を拾っていきます。



集められたものは、海の植物が極端に少なく、海の動物は貝がほとんど。陸の動植物は、竹や枝など流木が多く、人工物は数え切れないほどの数でした。集めて終わりではなく、最後には、渚の交番スタッフによる解説を行いました。

何故、海藻が少ないのか?何故、海の動物はイワガキばかりなのか?何故、こんなにも人工物が海岸にあるのか?子ども達と一緒に考えました。

そして、どうしたら今ある現状を解決できるのか、この後の海岸観察に向け、考える切っ掛け作りを行いました。



海岸観察を行うスタート地点に向かうまでの道中では、ビーチクリーンを行いました。300m程の短い距離でしたが、軽トラック一杯分の海岸ゴミを拾うことが出来ました。あまりのゴミの量に、子ども達もビックリした様子でした。拾い切ることが出来なかったゴミも沢山あり、全部のゴミを拾ったら…と考えると、恐ろしくも感じます。



ここからは、御前崎の海岸線を歩き、御前崎の海について学んでいきます。御前崎海岸のメインとなる場所では、石原氏より風や波の起こり方。そして、離岸流について学びました。写真や資料も確認をしながら、実際の海を観察しました。



場所を移し、今と昔の海岸の違いを、写真を見ながら確認をし、風や波などの影響により起こってしまっている御前崎の海岸が抱える海の課題について話をしました。

昔の写真は、御前崎灯台を守る会の皆さんのご協力の基、昭和 20 年代の御前崎の海岸の写真を見ることができ、子ども達も興味津々の様子でした。そして、昔と今とで、何故こんなにも海岸の様子が変わってしまったのかを、子ども達と考えました。

御前崎の海岸では、磯焼けの減少が大きな被害を及ぼしています。この海岸に多く生息していたカジメの減少とサガラメの死滅。そして、砂浜の減少。

活動の始めに行った、漂着物の分類分けから見えてきた疑問が、一つ一つクリアになっていきます。子ども達も、真剣な様子で話を聞いていました。



小休憩を取った後は、海岸道路を歩きながら御前崎の歴史に触れたり、海浜植物に触れながらゴール地点を目指します。

歩き始めて約 20 分。本日のゴールとなる御前崎 渚の交番駐車場に到着。約 4 k m の行程を、子ども達は頑張って歩き切りました。



最後の振り返りでは、この2日間で子ども達を感じた素直な感想を、たくさん聞くことができました。今回、感じ・体験した地元の海への思いを、大切にしてもらいたいと願っています。本日の活動の最後には、(一社)スマイルプロジェクトの代表 石原から、まとめとして話をさせて頂き、『御前崎の海を誇りに思い、御前崎の海を守って行って欲しい。』という、メッセージを子ども達に伝えさせていただきました。

今年度の市内小学校に向けた海洋教育授業は、全て終了となります。今回ご協力を頂いた皆さんにも報告・お礼をお伝えさせていただき、来年度の活動につなげていけるよう取り組みをしていきたいと思っております。

